

平成28年度

芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次



芸術文化振興基金助成事業

助成対象者インタビュー

有限会社パレナージュ

舞台芸術等の創造普及活動

- 1 音楽**
中部フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会
特定非営利活動法人 中部フィルハーモニー交響楽団
- 2 音楽**
第14回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン
オラトリオ《ベルシャザール》全曲公演
ヘンデル・フェスティバル・ジャパン実行委員会
- 3 舞踊**
ARCHITANZ 2016
株式会社 アーキタンツ
- 4 演劇**
空晴第15回公演「ここも誰かの旅先」
空晴
- 5 演劇**
木ノ下歌舞伎『義経千本桜―渡海屋・大物浦―』
木ノ下歌舞伎
- 6 伝統芸能の公開活動**
大島久見十三回忌追善能
喜多流能の会
- 7 美術の創造普及活動**
KYOTO 版画 2016 日本・カナダ国際版画展
版画京都展実行委員会
- 8 多分野共同等芸術創造活動**
音から作る映画のパフォーマンス上映
チャーム・ポイント

国内映画祭等の活動

- 9 国内映画祭**
第7回 映文連 国際短編映像祭
公益社団法人 映像文化製作者連盟
- 10 日本映画上映活動**
三陸映画上映ネットワーク事業（シネマエール東北2016）
一般社団法人 コミュニティシネマセンター

地域の文化振興等の活動

- 11 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演）**
みき演劇セミナー第二十一発「わがまちシリーズ第14弾」
公益財団法人 三木市文化振興財団
- 12 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）**
下道基行展―風景に耳を澄ますこと
公益財団法人 黒部市国際文化センター
- 13 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動**
宇陀市松山
「重要伝統的建造物群保存地区選定10周年記念」保存啓発活動
宇陀市

- | | | |
|----|--|---------------|
| 14 | 民俗文化財の保存活用活動
ジュニア浄瑠璃フェスティバル | 徳島県教育委員会 |
| 15 | アマチュア等の文化団体活動
町田市民ミュージカル 2016 | 町田市民ミュージカルの会 |
| 16 | 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動
寒風須恵器窯の再現・焼成プロジェクト | 公益財団法人 寒風陶芸の里 |



文化庁

文化芸術振興費補助金助成事業

舞台芸術創造活動活性化事業

- | | | |
|----|---|-------------------|
| 17 | 音楽
山形交響楽団 定期演奏会（第 252 回～第 259 回） | 公益社団法人 山形交響楽協会 |
| 18 | 舞踊
第 27 回清里フィールドバレエ | 株式会社 B. シャンブルウエスト |
| 19 | 演劇
文学座公演「越前竹人形」 | 株式会社 文学座 |
| 20 | 伝統芸能
復曲試演の会 | 公益社団法人 京都観世会 |
| 21 | 大衆芸能
Water illusion & Japanese Traditional Magic | 東京イリュージョン 株式会社 |

映画製作への支援

- | | | |
|----|-----------------------|---------------------|
| 22 | 劇映画
彼らが本気で編むときは、 | 株式会社 パラダイス・カフェ |
| 23 | 記録映画
息の跡 | 有限会社 カサマフィルム |
| 24 | アニメーション映画 長編
君の名は。 | 株式会社 コミックス・ウェブ・フィルム |
| 25 | アニメーション映画 短編
パカリアン | TOKO FILM |

参考 芸術文化振興基金による助成

文化芸術振興費補助金による助成

文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について

地味な作品でも確実に感じた手ごたえ 二度目のチャレンジで助成金を受けて

助成金を利用したことがない人にとって、応募までの手順や書類作成、基金の担当者との関係など、不安なことは多いと思います。そこで、平成 28 年度の芸術文化振興基金助成事業に応募し、現代舞台芸術創造普及活動（演劇）の助成を受けた有限会社パレナージュの小山ゆうなさんと有我明則さんに、助成制度を活用した体験を語っていただきました。

助成金額 1,286 千円

プロフィール

小山ゆうな（こやま ゆうな）：有限会社パレナージュ取締役。「雷ストレンジャーズ」主宰、演出家。

有我明則（ありが あきのり）：有限会社パレナージュ代表取締役社長。

活動概要

有限会社パレナージュは 2005 年に設立。2011 年より「雷ストレンジャーズ」を創立、演劇制作を開始。時間をかけた上質な演劇作品づくりを目指し、世界の古典から学ぶ「演劇ジェット紀行」シリーズを実施。新訳・新演出を通して、現代に古典を上演する意義を深めている。同シリーズでは「たくらみと恋」（シラー）、「青い鳥」（メーテルリンク）、「群盗」（シラー）、「ブラウニングバージョン」（テレンス・ラディガン）、「フォルケフィエンデ 人民の敵」（イブセン）を上演。

URL: <http://kamist.main.jp/>

助成実績

平成 28 年度、芸術文化振興基金より〈雷ストレンジャーズ 演劇ジェット紀行 オーストリア編「緑のオウム亭—1 幕のグロテスク劇」〉の公演に対し助成金の交付を受ける。本作は 19 世紀オーストリアの作家シュニツラー作品を新訳により現代に甦らせた。フランス革命時のパリ、劇場を兼ねた飲み屋で現実と非現実が交錯する。公演は平成 29（2017）年 3 月 1 日から 5 日まで、下北沢小劇場 B1（東京都世田谷区）にて 6 回上演。学生向けや一般向けの事前勉強会やイベント、アフタートークなども実施した。

申請から助成決定

▶ わからないことはこまめに相談

—— 当振興会の助成を受けようと思った理由を教えてくださいませんか？

小山 他の劇団さんのチラシでも芸術文化振興基金のロゴマークを目にしていたし、私たちと近い系統の作品を創っている団体が助成を受けていることが多い印象だったので、申請しました。実は応募したのは今回が 2 回目で、1 回目は落ちたんですが、申請書類の書き方などは前回の経験を踏まえてできたのが大きかったですね。動員数などの数字を具体的に明記したり。前回も今回も、申請の段階から基金の担当者の方が細かく相談に乗ってくださったのは助かりました。

—— 採択決定から準備段階で不安などはありましたか。

小山 はい、採択されたのが初めてだったので分からないことだらけで。例えば領収書をどういう形で取っておくべきか、とか。公演の制作をお願いした人や出演者が助成を受けた経験があったので、色々アドバイスをもらいました。申請した予算通りに行かない部分も多いですし、今回は申請時より出演者を減らした

ので、変更届けは提出したものの、それがどう判断されるのかという心配もありましたね。そういう時は、いつ電話しても担当の方がかなり親切に教えてくださって。

—— 逆に「もう少しこうしてもらえたら」と思うような部分はありましたか？

有我 申請する側からすると、申請額に対して補助金の比率が出てみないと分からない、という点がちょっと予想がつかせませんでした。審査基準が芸術性なのか公益性なのか、採択数によって補助対象額も変わってくるのか、そこは微妙な判断なんでしょうけれど。

—— 審議の過程は詳しくお話しできないのですが、芸術面、団体の運営面、活動の社会に対する波及効果と、大まかに三つの審査基準があります。どの点が欠けても審査を通るのは難しいですし、逆に言えば通ったところはある程度認められたということですね。募集案内に掲載する審査基準に沿って申請いただければと思います。そのうえでできるだけ皆さんの活動に見合った形で助成金が配分できるよう、心がけています。

助成期間中

▶知識欲を刺激し連日満席に

—— 実際に助成金を受けたことで可能になったことや、具体的な成果を教えてください。

小山 助成金によって稽古期間を長く取れたことと、広報費や制作スタッフなどの人件費に充てられたことは大きかったですね。折り込みチラシの数を増やせたこともあって、6回公演が常に満席になりました。毎公演キャンセル待ちが出る状態で、動員数は1,174人。助成対象作品であることで事前の問い合わせも前作の3倍以上ありましたし、チラシのロゴマーク効果で、一般の方も多く申込んでくださった手ごたえがありました。

—— 活動の公益性はどのような点にあると感じますか。

小山 私は古典作品から現代人が学べることは大きいと思っています。その思いで続けているシリーズで今回上演したシュニツラー作品は、地味ですがとても面白い作品で、フランス革命やオーストリアの歴史など他国の歴史にも興味を持っていただけるものでした。お客様から「またこういう作品が観たい」という反応も多くいただいています。演劇を通して視野を広げ、歴史から学ぶという意味でも公益性は高いと思っています。

—— 若い方たちに触れてもらう機会を広げることも意識されているそうですね。

小山 シリーズ初年にドイツのシラー作品を上智大学の先生に翻訳していただいた際、学生さんたちに芝居を観てレポートを書いてもらったら、「Happyエンドじゃない作品を初めて観た」「こういう演劇があるとは知らなくて衝撃を受けた」という感想がすごく多くて。「これはまずい!」と思ったんですね(笑)。「ロミオとジュリエット」を知らない子も多かった。それ以来、大学の先生に声を掛けていただいて、多くの学生さんたちにも観てもらっています。学生料金は2,500円~2,800円の間で設定して。作品選びは若い人達も楽しめるように、難しすぎないものを意識していますね。「二度と観たくない」と言われてしまうと意味がないので(笑)。

今後の展望

▶創り手と観客の意識改革

—— 今後も助成を活用していきたいと思われませんか。

小山 はい、次(平成29年度)も申請が通りましたので、今度は来てくれた学生さんの感想にこちらコメントを付けて返すというように、フィードバックできればと思っています。今後も欧米だと頻繁に上演されているのに日本では知られていない、というような作品を紹介していきたいですね。助成なしで赤字にならないことが理想ですが、やはり地味な作品を取り上げることが多いので、現実的には厳しいものがあって。できるだけ助成は活用させていただきたいです。

有我 助成の効果という意味では、助成を受ける側が最善を尽くすことは当然ですが、国からも外側からサポートしていただける仕組みがあると、より有難いかなと思います。例えば公演を一つの資産として、映像化してライブラリー化するというように。予算の問題

もあるとは思いますが文化事業として継続的にサポートしていただけるとうれしいですね。

小山 私はドイツに長く住んでいたんですが、ドイツは全て州立劇場で、お客さん同士が劇場で激しく議論するんです。何故かと訊くと、「自分たちの税金でヘタなものを作られるといけない」と。私たち創り手も助成を受けたからにはそういう意識を常に持っていなければならないですし、一般のお客さんも、自分たちにも関係あることだと思って観ていただければと思いますね。

—— これからのご活躍を楽しみにしています。今日はありがとうございました。



▲《緑のオウム亭-1 幕のグロテスク劇》



▲《緑のオウム亭-1 幕のグロテスク劇》



▲《緑のオウム亭-1 幕のグロテスク劇》

1 中部フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会

特定非営利活動法人 中部フィルハーモニー交響楽団

助成金額 2,946千円

活動概要

中部フィルハーモニー交響楽団は愛知県小牧市を本拠とするプロ楽団。中部圏を中心に事業を行い、地域の音楽芸術文化の向上と発展、社会全体の利益に貢献することを目的としている。地域に根ざし、地域を超えるトップクラスのオーケストラを目指し、「市民の文化財産」となるべく、小牧市以外に犬山、岐阜、名古屋、松阪などを巡回する定期演奏会を開催。2016年度は6月（愛知県名古屋市）、10月（三重県松阪市）、12月（愛知県犬山市）、2017年2月（小牧市）の計4回の定期演奏会を行い、2,400人を動員した。



▲第51回定期演奏会 指揮：秋山和慶

助成を受けて

当楽団は2000年設立の若いプロオーケストラです。多くの楽団が大都市や県庁所在地で活動する中、人口15万人の地方都市である小牧市をベースに、地域からの挑戦として、日本での新しいオーケストラモデルを目指しています。

プロオーケストラが自主公演を行う上での最大の壁は、赤字をいかに削減するかです。演奏会の成否は最初の企画（演奏曲、指揮者、ソリストの選定）でほぼ決まります。しかし、音楽性の高い人気指揮者、ソリストを起用すると出演料が高くなり、それに見合う入場料収入があげられないと赤字幅が大きくなります。当楽団は県からの公的助成が少額で、財政支援は企業・団体が中心です。そのような中で、現在いただいている助成金はオーケストラの運営を行う上で必要かつ不可欠なものとなっています。

今回の定期公演では、地域の聴衆が期待する名曲も十分加味しながら、楽団員の芸術性を磨けるようにバレエ組曲「プルチネルラ」など新しい曲へも挑戦しました。そして秋山和慶芸術監督を中心に、客演コンサートマスターとして元N響第1コンサートマスターの山口裕之氏を招聘したことで、若いオケが経験豊かなコンマスにより筋の通った演奏ができるようになり、音楽的にさらに高い所を目指すことが可能となりました。また、秋山芸術監督は年齢とともに表現に深みと広がりが一層増し、中部フィルもまた成長できたと感じます。

古今東西の名曲を聴いていただくことで人々の心を豊かにし、人生の大きな支えとなる場合もあり、そのことが社会の公益性に資していると考えます。当楽団は社会貢献活動の一環として、小中学校巡回演奏、各施設でのボランティア演奏なども積極的に行い、また、「ゲネプロ見学会」や「楽団員との交流会」などを実施し、クラシックファンの新規獲得・増加を目指しています。

今後はこのオーケストラの発展・成長を考え、秋山監督の優れた音楽性のもと、楽員の実力を上げることで、聴衆により上質の音楽を提供したいと考えます。芸術文化振興基金の助成を得ながら、「舞台芸術創造活動活性化事業」の補助金獲得へとつなげていきたいです。



▲第54回定期演奏会 指揮：秋山和慶 ピアノ：横山幸雄

特定非営利活動法人 中部フィルハーモニー交響楽団

〒485-0041 愛知県小牧市小牧2-107 小牧市市民会館内

Tel: 0568-43-4333 URL: <http://chubu-phil.com/>

2 第14回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン オラトリオ《ベルシャザル》全曲公演

ヘンデル・フェスティバル・ジャパン実行委員会

助成金額 729千円

活動概要

2003年より活動を開始したヘンデル・フェスティバル・ジャパンは《メサイア》に偏りがちなヘンデル像を正すために、声楽から器楽まで、多様なヘンデル作品を包括的、継続的に演奏し、知られざる傑作を紹介し続けている。

当公演ではヘンデルの円熟期の作品である上演時間3時間の大作オラトリオ《ベルシャザル》を取り上げ、クオリティの高い演奏で劇場娯楽としてのオラトリオの本質的な魅力を紹介した。



▲ベルシャザル

助成を受けて

活動開始当初は弦の各パートの奏者を最少人数に抑えていましたが、ヘンデルの劇場作品の最大の魅力である壮大さを表現するために奏者を増やし、さらに合唱団を新たに編成し、全体の編成を当初の倍以上の50名近いものに拡大しました。ヘンデル音楽にふさわしい厚みと迫力を得て、公演自体は好評を得るようになりましたが、出演者謝礼が増え、累積赤字が増大し、活動の継続が危ぶまれる状況となりました。

また、知られざる傑作を紹介するという事は、ほとんどが日本初演、もしくは世界初演となります。「初演」の責任において、また、作品に対する正当な評価を得るため、「信頼できる楽譜の使用」「オリジナル編成」「全曲ノーカット上演」の基本姿勢を掲げています。このよ



▲ベルシャザル

うような基本姿勢を貫くことは当然公演費用と関わってきます。しかし増大する経費に見合ったチケット単価を設定すると高額となり過ぎ、集客が困難になるため、価格設定は赤字を覚悟したものにせざるを得ません。最も優先すべきは演奏のクオリティと、それを担う演奏者であると承知しながら、慢性的な赤字解消の最終手段として、演奏謝礼を切り詰めることは最大のジレンマでした。

当公演では助成のおかげで出演者に最低限の謝礼を払うことができ、極めてクオリティの高い公演が実現しました。ヘンデルのオラトリオは演奏会形式でありながら、オペラに劣らぬ劇場娯楽であること、また、多彩で多様な合唱が多く含まれているため、合唱団のレパートリーとなり得ることを示すことができました。何よりお客様に劇場娯楽として楽しんでいただくことができ、「《メサイア》以外にこんなにも素晴らしいオラトリオがあるとは！」との感嘆の声をいただきました。我が国のクラシック音楽文化は固定的な作曲家の固定的な作品に偏っていると思われがちですが、私たちの活動は我が国の音楽文化の多様化に寄与する公益性を供えていると考えます。

今後は、引き続き助成金も活用させていただきながら、最低でも異なる2演目を上演し、フェスティバルと銘打つにふさわしく、規模を拡大していきたいと思っています。

ヘンデル・フェスティバル・ジャパン実行委員会

〒300-1511 茨城県取手市栲木 188-15

Tel: 0297-82-7392 URL: <http://www.handel-f-j.org/>

3 ARCHITANZ 2016

株式会社 アーキタンツ

助成金額 1,834 千円

活動概要

アーキタンツは世界の第一線で活躍する講師によるレッスンを提供するため、2001年にスタジオを設立。バレエ、コンテンポラリーダンス等の各種クラスやワークショップの開催と同時に、パフォーマンスのプロデュースも積極的に行っている。

本公演は経験のあるダンサー、パフォーマーをさらなる高みへ導くため、外国人アーティストとのコラボレーションにより、作品をより一層充実させ、自らの経験値を上げていくことを目的の一つとして企画。また、完成度の高い作品を提示することにより、観客層の充実と日本のダンスそのものの発展に繋がることを期待している。

日本人ダンサーと香港アカペラグループが共演した『Voicemail2020』、ヴァツラフ・クネシュ振付『REEN』の2作品を上演。2016年11月1・2日、新国立劇場小劇場にて計3回公演。



▲『REEN』 写真：大洞博靖



▲『Voicemail2020』 写真：大洞博靖

助成を受けて

今回“音楽とダンスの密接な関わり”をテーマにプロデュースした2作品ともに、海外のアーティストと日本在住のアーティストが共同作業で作品をつくり上げています。アーティストの招聘をはじめとする必要経費を捻出しなければならず、また、“音”にこだわる作品づくりのため通常より音響費が上がる中で、助成をいただいたことで作品のクオリティを落とすことなく、振付家の意図する音響や照明などを使用できました。結果的に音楽とダンスファン双方にアプローチでき、ダンスを初めて見たという観客も多く、観客層の裾野を広げることができたと思います。

全編を通しライブ演奏にこだわった作品とヴォイス・パーカッションとアカペラにより提供された“音楽としての音楽”を、ダンスと同じ比重を持って舞台上で見せる2つの作品は他に類を見ないものであり、新しいジャンルとも言える作品を生み出すことができました。また、新国立劇場という公共性の高い劇場で上演することで、より幅広い観客層に、作品の多様性とともなうダンスの魅力を訴えることができたと思います。海外アーティストとのコラボレーションにより創作された今回の作品は、さらに練り上げて海外での上演も視野に入れており、日本の文化水準の高さを世界へアピールする契機ともなっていると考えています。

アーキタンツがプロデュースする劇場公演シリーズは、今後も『ARCHITANZ 2*** (年号)』として継続してまいります。今まで培ってきた海外アーティストとのネットワークを活かし、日本の第一線で活躍するダンサーたちによる、唯一無二の作品を提案し続けていきたいです。その中で、劇場費やテクニカルに発生するコストをチケット収入で賄うことには限界があり、また少しでも安く舞臺芸術を観客に提供していくことが文化の発展に繋がると考えているため、これからも必要に応じて助成金を活用させていただきたいと思っております。

株式会社 アーキタンツ

〒105-0023 東京都港区芝浦 1-13-10 第3東運ビル 4F

Tel: 03-5730-2732 URL: <http://a-tanz.com/>

4 空晴第15回公演「ここも誰かの旅先」

空晴

助成金額 1,906千円

活動概要

空晴（からっぱれ）は小劇場での親しみやすい公演により、身近に文化に触れてもらう機会を創出することを目指して2007年に設立。大阪弁による家庭劇で等身大の人間を描き、日々の生活の中に楽しみや喜びを見出す機会を提案している。旗揚げから東京・大阪の2都市公演を開催し、2010年には福岡、2015年には北海道にも進出。関西圏以外でも認知度が高まっている。また、福岡では演劇専門学校生対象のワークショップを、地方では小学校で演劇の特別授業を開催するなど、演劇文化における次世代の育成にも取り組んでいる。

本公演は日常に物足りなさを感じる主人公が些細な日常の中にある大切さに気づいていく様子を丁寧に描き、2016年8月4日～9日 HEP HALL（大阪府大阪市）、9月1日～5日 ザ・スズナリ（東京都世田谷区）、9月10・11日 シアター ZOO（北海道札幌市）にて、3都市計19回公演。



▲「ここも誰かの旅先」



▲「ここも誰かの旅先」

助成を受けて

今回は大阪の老舗劇団、南河内万歳一座の看板俳優・河野洋一郎氏を迎えて重厚な大人の作品となり、新しい劇団の魅力を生むことができました。助成を受けることで作品に厚みを加えるゲストを迎えられたこと、劇団員にもギャランティを支払うことができモチベーションも上がり、美術や照明にも妥協せずに創作できたこと、使用する楽曲もオリジナルの作成を依頼するなど、充実した作品づくりに繋がられました。東京・北海道では過去最多入場数を更新し、多くのお客様にご好評いただいています。劇団発足当初から東京・大阪の2都市で公演し、近年は地方公演にも力を入れてきましたが、地方公演では特に運搬や交通費・人件費が高いため、今回助成を受けることで北海道公演も実現できました。助成のおかげで定期的に地方でも公演を打つことができ、より多くのお客様に楽しんでいただけるため、現代社会では希薄になりがちな人間関係の大切さを見直す機会を作っていきたいと願う私たちの活動の目的も、さらに広がると考えています。

大がかりな仕掛けや派手な演出は一切ありませんが、これからも誰でも垣根なく楽しんでいただける作品づくりを信条に、おせっかい、勘違い、思い込みから起こる騒動の中で、煩わしくも大切な家族や仲間との繋がりを描き、観客の方々に対して日々の生活の中に楽しみや喜びを見出す機会を提案していきたいと思っています。クオリティの高い作品づくりを続けるため、また、本拠地大阪だけでなく定期的な地方公演やロングラン公演を実現させるために、今後もぜひ助成金を活用させていただきたいと思っております。

空晴

〒540-0029 大阪府大阪市中央区本町橋 2-14 ma-ha 内
Tel: 080-3112-3323 URL: <http://www.karappare.com/>

5 木ノ下歌舞伎 『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』

木ノ下歌舞伎

助成金額 3,411千円

活動概要

木ノ下歌舞伎は、歴史的な文脈を踏まえたうえで、現行の歌舞伎にとらわれず新たな切り口で歌舞伎の演目を上演し、歌舞伎と同時代の舞台芸術を取り巻くムーブメントの惹起を目的に2006年に旗揚げ。主宰・木ノ下裕一の指針のもと、さまざまな演出家により作品を上演する体制で活動を展開する。2013年『黒塚』にてCoRich舞台芸術まつり！2013春グランプリ受賞、2015年『三人吉三』（再演）にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞ノミネート。国内フェスティバルでの上演や海外招聘公演も行っている。

本公演は2012年に上演した全3幕・5時間に及ぶ『義経千本桜』内の一演目で、独自の歴史観と現代日本が抱える社会問題を重ね合わせ、アクチュアルなドラマとして上演。2016年5月27日～30日愛知県芸術劇場小ホール（愛知県名古屋市）、6月2日～12日東京芸術劇場シアターイースト（東京都豊島区）にて2カ所17回公演を行った。

助成を受けて

現代演劇と古典芸能を橋渡しし、その魅力を広く日本国内に普及させる活動を行っている私たちにとって、より多くの観客に作品を届けることは不可欠であり、これまで貴基金の助成金を数度いただきました。助成を受けてもなお予算面では厳しいことが多く、特にプロデュース形式で作品を上演しているため、アーティストによって異なる創作方法や美術・照明等の予算の比重の違いに対応しつつ、より良い創作環境を提供していくことはいつも苦勞を伴います。

今回は4年前に一度上演した作品を新たにリクリエーションしました。助成をいただくことで俳優・スタッフの拘束が増える長期間での上演が可能となり、小劇場でも多くの集客が達成できます。今回初めての会場となった名古屋公演では80%を超える入場者数に恵まれ、東京公演も含めて過去最大の動員数となりました。また、演目の講座も常に人気が高く、上演作品に対する知識を深める土壌が根付いたことを感じました。私たちの活動は単に作品の発表だけでなく、日本が培ってきた古典芸能の魅力を様々な角度から紐解き、観客とアーティストに提供することを目指しています。日本人の共有財産である古典を現代人が見直し、興味を持って接する機会を提供するという新しい舞台芸術の環境づくりには、高い公益性があると感じています。

ひとつの作品をつくることは、大変時間のかかる作業です。今後は新作の発表と並行して、これまで創作してきた作品の再演の機会をより多く持ち、日本各地のさまざまな会場で上演していきたいと考えています。作品をレパートリーとして成立させ、より多くの観客に出会うためにも、今後も助成金を活用したいと思っています。



▲木ノ下歌舞伎『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』
東京公演舞台写真（撮影：bozzo）



▲木ノ下歌舞伎『義経千本桜—渡海屋・大物浦—』
東京公演舞台写真（撮影：bozzo）

木ノ下歌舞伎

〒616-8122 京都府京都市右京区太秦井戸ヶ尻町27

Tel: 075-285-2485 URL: <http://kinoshita-kabuki.org/>

6 大島久見十三回忌追善能

喜多流能の会

助成金額 1,298千円

活動概要

喜多流能楽師・故大島久見の意であった能楽師自身の芸の研鑽・向上のための勉強会として始まった喜多流能楽教室。その志を継承する能楽師・親族で構成され、定期公演・別会を行っている。能楽の普及・啓蒙を目的とし、学生や外国人向けワークショップも多く開催。

当公演は大島久見の十三回忌追善能。記念会にふさわしい内容・共演者を迎え、大島衣恵が大曲『道成寺』を披露、大島伊織が初シテ『経政』を務めた。大島能楽堂（広島県福山市）での『道成寺』演能は、舞台開き（1971年）以来45年ぶりだった。



▲『経政』大島伊織

助成を受けて

定期公演では福山を中心とした能楽師に依頼する機会が多いですが、記念会の今回は、各地の優れた能楽師の方々にご出演いただき、特に喜多流・友枝昭世や太鼓・亀井忠雄（ともに人間国宝）に花を添えていただくことができました。福山のような小さな地方での『道成寺』は大変珍しく、東京・京都などから多くの出演者にご協力いただく必要があります。助成事業に採択いただいたおかげで、経費の多くを占める交通・宿泊費を補てんでき、理想的なメンバーで番組作りができました。また、喜多流女性能楽師の活動が認められにくい状況で、悲願の披露ものを華々しく勤められたのは助成の多大なる効果です。普段、大島能楽堂にお越しただいてのお客様にはレベルの高い公演をご覧いただき、出演者も力量ある方々と共演できたことで非常に高いレベルの研鑽の場となりました。能楽初心者にも見応えある内容で、お客様の新規開拓も見込めるものとなりました。



▲『道成寺』大島衣恵

当能楽堂での定期公演集客率は平均60%ほどですが、今回は記念公演で話題性があり、また、振興会より助成を受けた公演として高評価をいただき、演能日1ヶ月前にはチケットのお申し込みをお断りしなければならない状況となりました。当日は全国各地、また、イギリス、アメリカからも観能にお越しいただき、評価していただいたほか、地方での演能活動を能楽研究者、能評論関係者にご高覧いただく機会がめったにないのですが、助成金交付活動として取り上げていただいたことで、能評論をいただくこともできました。『道成寺』演能中にシテが骨折し、皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしたことは悔いが残りましたが、興行的には大成功を収めることができました。福山あるいは広島県という地域において、この公演は能楽の活性化に結びつき、また、地域社会の活性化が社会の活性化に繋がる一助と成りえたのではないかと考えます。

今後はより一層、平素の定期公演を大事にしながら、能楽普及のための企画を工夫し、また助成していただけるような活動を目指したいと思っています。

喜多流能の会

〒720-0814 広島県福山市光南町2-2-2

Tel: 084-923-2633 URL: <http://www.noh-oshima.com/>

7 KYOTO 版画 2016 日本・カナダ国際版画展

版画京都展実行委員会

助成金額 1,672 千円

活動概要

版画京都展実行委員会は、西日本の版画領域における地域の危機的状況を打開し、将来を託せる新人発掘を目的として 2000 年に結成。世界各国の優れた版画作品を紹介している（2014 年までに中国、ブルガリア、タイ、アメリカ、ポーランド、英国、オーストラリアとの交流展を開催）。

「KYOTO 版画 2016 日本・カナダ国際版画展」は普段あまり目にしない現代カナダの版画作品を紹介するもので、京都市美術館のほか、徳島県立近代美術館での巡回展を開催した（合計 2 ヶ所 22 日間）。



▲日本・カナダ国際版画展

助成を受けて

京都市美術館にて 10 月 4 日～ 16 日、日本作家（87 名 158 点）、カナダ作家（45 名 90 点）の版画作品を展示しました。カナダ側キュレーターのアルバータ大学美術学部教授リズ・イングラム氏とカナダ作家エイプリル・ディーン氏によるレクチャー「カナダ版画：過去と現在を通じて」、7 名のカナダ作家によるパネル・ディスカッション「国際的な版画の動向に見る創造性について」、カナダ作家と日本作家によるギャラリートークを開催。カナダ美術の現状を知ることができる有意義な企画となりました（参加者合計 125 名）。また、ワークショップ「メディウム剥がし刷り版画」は、一般の方に版画に親しみ、理解していただく良い機会となりました（参加者 45 名）。

巡回展は 10 月 22 日～ 30 日、徳島県立近代美術館ギャラリーと徳島県立 21 世紀館多目的活動室の 2 会場で開催。出品作家によるギャラリートークも開催して一般鑑賞者に版画の魅力を伝え（参加者 40 名）、近藤幸「木版画の刷り実演」、廣瀬敦史「木口木版画の制作実演」では、木版の理解を一般の方に深めることができました（参加者 29 名）。

今回の助成によって、カナダから作家 2 名を招待することができ、自費での参加作家も含めて 15 名のカナダ人が来日してパネル・ディスカッションやギャラリートークに参加いただき、一般の美術愛好家のみならず、日本の若い作家や美術研究者にとっても良い刺激となりました。

これまでの活動により、西日本における版画の国際交流が定着し、本展は海外においても高く評価されるようになっていきます。このように継続して開催を続ける国際交流版画展は本展が日本では最大規模であり、この活動が今後も継続できれば、日本美術界の発展に大きな役割を果たす事となるでしょう。今後も必要に応じて助成金を活用させていただきながら、様々な国との交流展を開催していくと同時に、西日本の版画作家達を阪神、京都、中部、中四国、九州の 5 地域ブロックに分け、私どもの活動を地域へ広げていくことを模索したいと考えています。



▲日本・カナダ国際版画展

版画京都展実行委員会

URL: <http://www.kyotohanga.com>

8 音から作る映画のパフォーマンス上映

チャーム・ポイント

助成金額 480千円

活動概要

チャーム・ポイントは映画監督七里圭を中心に、フリーで活躍する映像スタッフ、音楽家、写真家、詩人等が、既存の表現ジャンルに留まらない作品を製作、発表するため2012年に結成。

当公演では、2年間にわたり国内で実験的製作と発表を続けている「音から作る映画」プロジェクトから生まれた作品の国際上演版（「サロメの娘／パフォーマンス」、「サロメの娘／アクスモニウム」（改訂長尺版）、「Music as film」（映画としての音楽 国際上演版））を世界初演した。



▲サロメの娘 / パフォーマンス

助成を受けて

「音から作る映画」は、映画製作の通常のプロセスを逆転して、音（サウンドトラック）から映像へと制作するプロジェクトです。電子音楽家、ボイス・パフォーマー、舞台俳優、ダンサーなど多彩なジャンルの表現者とコラボレートしながら、“映画とは何か”を考察し、映画の新しい表現形式を創造しています。デジタル技術の飛躍的な発展と拡がり、情報へアクセスする利便性を高める一方、他者への想像力の減退や趣味嗜好のタコソバ化を招いています。こうした状況で、既存の表現領域を越えた作品制作は、様々なジャンルの表現者に刺激を与え、異分野の観客が交流する場を作り、文化状況を活性化することに繋がります。デジタル技術によって画も音も編集できる現在、映像撮影に付随する録音という従来の工程・考え方を見直すことは十分に可能で、この試みは映画表現を革新・拡張する契機となると考えます。

本公演は、ジャンルを横断する多彩な参加アーティストが上演前から話題となり、TPAM（国際舞台芸術ミーティング）2017のディレクター（恩田晃氏）の推薦により、TPAM フリンジ作品として上演されました。上演は好評を博し、一般の観客、国内の識者とともに海外のフェスティバル・ディレクターも多く視察に訪れました。すでに2018春にフランス・ストラスブールで開催される電子音楽祭からの照会も届いています。多彩なジャンルのアーティストを招聘し、共同制作した本公演は、自己資金とチケット収入だけでは成立しえず、助成を得ることは経済的に大きな効果がありました。また、上演には国内外から識者や表現者が集まりましたが、それは振興会からの助成を受けているという信頼感もあったと思います。

今後は、今回の経験と実績をもとに、映像を媒介に他ジャンルのアーティストとのコラボレーションをさらに発展させ、この試みを海外へ発信していきたいと思います。



▲ Music as film

チャーム・ポイント

URL: <http://keishichiri.com/jp/>

9 第7回 映文連 国際短編映像祭

公益社団法人 映像文化製作者連盟

助成金額 1,531千円

活動概要

2010年に「映文連アワード」と「世界の優秀企業映像を見る会」を一つの映像祭に統合した「映文連 国際短編映像祭」。2007年創設の「映文連アワード」は、我が国唯一の産業・文化関連の短編映像祭で、短編映像業界の活性化を図り、次世代を担う新しい才能を発掘している。「世界の優秀企業映像を見る会」(現「International Corporate Film Showing」)では、海外の映像祭(米国・ドイツ・仏)と連携し、国内では鑑賞の機会が少ない海外の優れた企業映像の紹介に努めている。

第7回映画祭は2016年11月～2017年2月、東京を主に、地方では大阪・沖縄・札幌にて上映会を開催。「映文連アワード2016」受賞作品の上映を中心にトークセッション等を開催し、延べ830人が参加した。



▲2016 受賞作品上映会トークセッション
「若手監督、それぞれの表現法」

助成を受けて

10周年を迎えた「映文連アワード」は、会員社の枠を越えて広い層から応募があり、現在は短編映像の登竜門として認識されつつあります。受賞作品のレベルも上がっており、これまで約300作品の受賞作を送り出し、プロフェッショナルな製作者・クリエイターの能力向上、短編映像業界の活性化に貢献してきました。パーソナル・コミュニケーション部門では、映像製作を志す個人・グループ等から広く募集し、世界で活躍する若手監督を輩出しており、次代を担う才能の発掘に役立っています。上映会の入場者数は、Webの伸長により必ずしも増加に繋がっておらず、足を運んでもらうために試行錯誤を重ねていますが、確実に製作者のモチベーション向上に繋がっており、参加者からは質の高い良い映像を見ることができたと好評をいただいています。地道な活動ですが、ノンシアトリカルな短編映像を広く一般の人たちに鑑賞してもらおうという意味で非常に公益性があり、短編映像の質の向上・普及に手ごたえを感じています。

「映文連アワード」は設立当初、作品出品料や上映会チケット収入などで運営費を十分には賄えず、資金調達が課題でした。そのような状況の中で、貴振興会の助成は資金面で大きな効果がありました。また、映像祭が後盾を得て、誇りをもって実施できるようになりました。パンフレット等に入るロゴマークは映像祭の対外的な評価を高めており、短編映像の応募本数は景気変動等の影響を受けやすいですが、助成によって継続性を見通せ、安定的な開催に繋がっています。

今後は「映文連アワード」の社会的認知度をさらに高め、作品応募数や上映会参加者を増やすべく、情報発信の方法を模索していきたいです。また、日本で制作された短編映像を照会できるデータベース作成も課題です。将来的には、国内のみならず、海外からの作品応募も増やせるような映像祭へと発展させたいと考えています。



▲グランプリ授与(国立新美術館講堂)

公益社団法人 映像文化製作者連盟

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18 藤和日本橋小網町ビル7階
Tel: 03-3662-0236 URL: <http://www.eibunren.or.jp>

10 三陸映画上映ネットワーク事業 (シネメール東北 2016)

一般社団法人 コミュニティシネマセンター

助成金額 3,000千円

活動概要

コミュニティシネマセンターでは映画の上映により被災地の人たちを元気づけ、復興に協力したいとの思いから、2011年5月に「シネメール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」をスタート。約6年間で岩手、宮城、福島沿岸地域を中心に、670回以上の上映会を行ってきた。元々、三陸沿岸地域は、映画館のない市町村が多く、更に東日本大震災により公共ホール等を使用した上映活動も途絶えていたことから、本プロジェクトでは、上映者と観客双方の育成を図ることを重要なミッションと位置づけ、小規模な上映会を定期的・継続的に実施することに力を注いできた。その成果として、被災地のいくつかの市町村では、新たな上映団体が生まれ、新たな上映活動が始まりつつある。

2016年度は、「三陸映画上映ネットワークプロジェクト (シネメール東北 2016)」として、被災地支援から、被災地の文化活動支援へ活動内容の軸足を移し、地域の人たち自身による上映活動が根付き始めている地域での上映を重点的に実施。

上映回数計 53 回 (岩手県 31 回、宮城県 16 回、福島県 6 回)、合計 3,690 人が参加。また、同年 4 月に発生した熊本地震の復興支援のため、「うつくしいひと」チャリティ上映会を企画。全国 51 会場で開催し、8,009 人が参加した。



▲気仙沼赤岩児童館「ミニオンズ」



▲釜石てっぱん映画祭

助成を受けて

貴基金には 2011 年度より一貫して、継続的にこのプロジェクトにご支援いただいています。東日本大震災の被災地は現在、復興のまちづくりの最中にあります。人口減少が続く中で、多様な文化事業を実施するために公的な支援は不可欠です。入場料収入だけで事業を成立させることは容易ではなく、特にシネメール東北では小規模な上映会を定期的に行うことで上映者と観客双方の育成を図ることも目的としており、年間を通して継続的に上映事業を行うために、貴基金の助成が必要です。今回助成をいただいたことで 1 年間、東北地方で 53 回の上映会を行うことができ、熊本支援の活動にもいち早く取り組むことができました。

事業を継続する中で岩手県宮古市には映画祭が生まれ、釜石市では新たな文化施設「釜石 PIT」を会場に映画祭が始まり、上映団体も生まれました。宮城県石巻市では定期的な上映活動が定着し、岩手県岩泉町や大槌町、宮城県気仙沼市、福島県南相馬市でも新たな上映団体が生まれ、映画館がない地域で“スクリーン体験”を持続的に提供する人材が育ちつつあります。

シネメール東北の活動では、6年間で、映画館のない地域で、約 3 万 5,000 人の人たちに大きなスクリーンで映画を観る喜びを届けてまいりました。多様な映画を選定することに努め、上映者育成のためのワークショップやネットワークづくりも行っており、これらの活動すべてが公益的なものと考えています。今後は新しい上映者とともに上映事業を行い、必要に応じて助成金を活用しながら、近い将来、地域の上映者が自律的に活動を継続していけるようにしたいと思っています。

一般社団法人 コミュニティシネマセンター

〒150-0044 東京都渋谷区円山町 1-5 キノハウス 5F

Tel: 050-3535-1573 URL: <http://www.jc3.jp>

11 みき演劇セミナー第二十一発 「わがまちシリーズ第14弾」

公益財団法人 三木市文化振興財団

助成金額 747千円

活動概要

公益財団法人三木市文化振興財団は、芸術文化鑑賞事業の開催、地域住民主体の芸術文化活動育成など多様な事業を展開することで芸術文化の振興を図り、個性と魅力あふれる地域文化の創造に寄与することを目的とし、1986年に設立。

みき演劇セミナーは1996年に活動を開始し、市民による地域の創作劇を22年間途切れることなく継続している。2017年3月19日には、みき演劇セミナー第二十一発 わがまちシリーズ第14弾『重棟』を三木市文化会館にて上演した。



▲みき演劇セミナー第二十一発

助成を受けて

当財団では、一般公募の参加者だけで地元の歴史を創作した芝居づくりを行い、客席530名の劇場で有料公演を実施しています。地元の出来事を再発見し、誰もが興味を持ち気軽に携われる状況を創り上げ、幅広い創造、発信型の事業を展開し、今後の地域文化発展を目指しています。

地方の公立劇場における市民参加型事業は地域に一番密着した文化事業であり、地域の方と連携しながら、まちの歴史、出来事、民話を掘り起し、芝居にするためには、時間と労力が必要です。市民が台本製作から公演まで行い、毎回新たな芝居をつくるため、大道具、小道具、衣裳などの経費がかかります。地元の歴史を活かした市民の手づくり芝居を多くの市民に鑑賞してもらうため、入場料を低料金に設定せざるを得ず、資金面での収支バランスを取ることは難しいところではあります。

しかし、今回助成を受けたことで、時代劇ならではの衣裳、小道具を準備することができ、舞台セットも脚本に沿った道具製作ができ、「全てが分かりやすかった」との声を観客より多数いただきました。何より低価格での入場料設定が可能となり、多くの入場者が鑑賞できる機会となりました。

この活動により地域での郷土歴史認識が変化し始めています。「住んでいながら地元の歴史を知らなかった」との感想もたくさんいただき、芝居を通して当時の三木を分かりやすく伝承することができました。地域が盛り上がり、芝居の題材とした人物の石像が新たに建てられるなど、地域文化の発信へ繋がる活動と考えています。また、参加者が台本製作から舞台制作、キャストまで、一つの芝居を創り上げる全ての過程を経験することができ、地元を誇れる心を育成するとともに、市民文化活動の向上にも寄与しています。

今後は一日だけの劇場公演以外にも、学校や地域の行事、イベントなどに率先して参加し、芝居集団という特徴を活かして、誰もが分かりやすい歴史、伝承を紹介できる体制づくりを整えていきたいです。



▲みき演劇セミナー第二十一発

公益財団法人 三木市文化振興財団

〒673-0433 兵庫県三木市福井 1937

Tel: 0794-83-3300 URL: <http://www.miki-bunka.or.jp/>

12 下道基行展—風景に耳を澄ますこと

公益財団法人 黒部市国際文化センター

助成金額 786千円

活動概要

1994年開館の黒部市美術館は、2014年より公益財団法人黒部市国際文化センターの管理となり、市民の美術に関する知識・教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与している。

2016年7月23日から10月10日まで「下道基行展—風景に耳を澄ますこと」を開催。作品3シリーズ（181点）。下道基行は、写真や文字を表現手段として目の前に広がる風景に興味を持ち、旅やフィールドワークをベースに表現を続けている現代美術作家。本展では、黒部市近郊のフィールドワークを経て新作「石」を発表、関連企画として、下道基行トークイベント、ワークショップ「夏の青空教室」、大人のための本気のあそび体験ツアー「太古の風景に耳を澄ます」を開催した。



▲ワークショップ「太古の風景に耳を澄ます」

助成を受けて

今回助成を受けたことで、下道氏には現地調査から地域に関連した新作を制作していただくことができました。新作「石」を通じた地域の歴史や風土についての考察は、地域に新たな価値を見出し、そこから無作為にモノを使う行為への考察へと発展をみせた内容は、従来の下道作品とリンクしながら、鑑賞者に重層的な思考をもたらす内容となりました。現代美術に触れる機会の少ない地元の方々にとっても充実した鑑賞体験をもたらし、誰にも省みられなかった豊かな地域文化の一面を日常的な視線から感じ、地域の知られざる物語や記憶に触れる機会となりました。

また、会場設営や展覧会カタログの作成についても、作家の意図を十分に反映することができました。会場も造作等を行い作家の希望するイメージに近づけることができ、このような展覧会を提供できたことは、作家、鑑賞者双方にとって意義があり、地域の文化振興に寄与できたのではないかと考えます。鑑賞体験だけでは得られない関連イベントの実施も展覧会に厚みをもたらしました。テレビCMなど普段はできない広報手段で告知を行えたことも助成によるものです。

作家の地域リサーチによる作品制作は、黒部市や近郊地域が推進するジオパークの活動にもリンクしており、美術館と他分野の物事を結び、地方美術館としての特色やあり方を見つけられたように感じます。今後も芸術を通して広がりのある活動を行っていきたいと思いますが、事業予算が小規模なため、指定管理料、入場料収入のみの予算では、充実した内容の展示を作家にお願いすることが難しいのが現状です。少しでも質の高い展覧会を行えるように、今後とも助成金を活用させていただきたいと思っております。



▲展示風景「漂泊之碑」

公益財団法人 黒部市国際文化センター

〒938-0031 富山県黒部市三日市 40

Tel: 0765-57-1201 URL: <http://www.city.kurobe.toyama.jp/guide/svGuideDtl.aspx?servno=79>

13 宇陀市松山「重要伝統的建造物群保存地区選定 10周年記念」保存啓発活動

宇陀市

助成金額 813千円

活動概要

奈良県宇陀市松山地区は古くから城下町として発展し、今でも生活の場でありながら、その町並みは景観を保ったまま残されている。2006年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されてから10周年の節目を迎えた2016年、宇陀市では、地域住民が自覚をもって町並み景観の維持向上に努めることを促すとともに、「重要伝統的建造物群保存地区」としての価値を活かした地域活性化に寄与することを目的として、2016年7月9日に「宇陀市松山重伝建選定10周年記念講演会」を開催した。また、内容の周知をはかるため、10年間の町並み保存活動の記録と蓄積されてきた町並みの特性を維持するためのノウハウ、講演会の内容を10周年記念冊子「宇陀松山まちづくり10年のあゆみ」にまとめ、2017年3月に発行、地域住民・関係者・関係団体200箇所に配布した。

助成を受けて

宇陀市松山は、奈良県内に3地区ある重伝建地区のひとつです。10年間にわたり続けてきた町並み保存活動の記録と周知を行うにあたり、貴助成の趣旨や目的と合致するため申請させていただきました。助成により開催できた「宇陀市松山重伝建選定10周年記念講演会」では、当保存地区の保存活動に尽力された京都大学教授・増井正哉氏による講演と、文化庁の担当調査官である下間久美子氏より激励の言葉をいただき、松山地区10年の活動成果と、全国の伝建地区の活動状況を再認識する機会となりました。講演会当日は近隣地区に大雨警報が発令され、本地区においても大雨が降って参加人数が目標に達しなかったことは残念でしたが、講演会の開催により、近隣の伝建地区の担当者やNPO団体と交流する機会が得られ、地域住民自らが自覚をもって町並み景観維持向上に努めるための糧となり、町並み保存活動に寄与することができました。

また、保存事業の経過をまとめた「宇陀市松山重伝建選定10周年記念冊子」や宇陀市松山周辺の「散策マップ」を発行し、関係者・関係団体、来訪者等に配布することで、松山地区の発信と案内を充実させることができました。これらの活動によって松山地区10年間の活動記録を振り返るとともに、全国に111地区ある重伝建地区との連携を密にし、地域文化の振興に資する事業であることを明示できたと考えます。「散策マップ」は保存地区周辺の関連施設に備え、希望者に配布することで、内外に向けてさらに松山地区の周知を図ってまいります。

同年に重伝建選定10周年を迎えた他地区と共に関連イベントを企画するなど、15周年、20周年に向け、助成金も活用させていただきながら、活動を継続・発展させていきたいと思っております。



▲宇陀市松山
 「重要伝統的建造物群保存地区選定10周年記念」保存啓発活動



▲宇陀市松山
 「重要伝統的建造物群保存地区選定10周年記念」保存啓発活動

宇陀市

〒633-0292 奈良県宇陀市榛原下井足 17-3

Tel: 0745-82-3976 URL: <http://www.city.uda.nara.jp/>

14 ジュニア浄瑠璃フェスティバル

徳島県教育委員会

助成金額 1,232 千円

活動概要

徳島県の「阿波人形浄瑠璃」は公益財団法人阿波人形浄瑠璃振興会を保護団体として国の重要無形民俗文化財に指定されているが、近年、芸能の担い手の高齢化や減少が課題となっている。一方、県立3高校（城北高校、小松島西高校勝浦校、那賀高校）や公立中学校では、部活動等で阿波人形浄瑠璃に取り組んでいることから、貴重な文化財を未来に継承する人材を育成し、地域の活性化を図ることを目的として、「ジュニア浄瑠璃フェスティバル」を開催。2016年10月23日、重要有形民俗文化財である犬飼の舞台（徳島県徳島市）において、人形浄瑠璃に取り組む中学・高校8校の生徒約90名が、「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」「壺坂観音靈験記 壺坂寺の段」などを披露。併せて県内高校生による「阿波藍ファッションショー」も開催した。



▲重要有形民俗文化財「犬飼の舞台」



▲演目「寿二人三番叟」

助成を受けて

過去にイベント等で人形浄瑠璃に取り組む中・高校生が一同に揃った実績がなく、また、重要有形民俗文化財（犬飼の舞台）を活用した初の取り組みだったことから、子供目線の細かい配慮を行うこと、学校のほか子供たちの指導者・開催地の地元関係者との調整を密に行うこと、雨天時対策を意識して実施計画を進めました。犬飼の舞台での公開活動は交通の便が課題でしたが、助成を受けたことで出演校の移動用バスを運行でき、太夫・三味線の師匠による伴奏で農村舞台の情景に合った公演を実施できました。控室テントや太夫座の設営等、上演環境を整えられたのも、助成あってこそです。

この公演活動によって生徒同士の連帯感や向上心を育み、また、人形浄瑠璃が盛んな兵庫県立淡路三原高校の参加によって、県域を越えた交流活動も行えました。来場者は約350名となり、郷土の伝統文化を担う次世代育成の重要性、人形浄瑠璃の魅力を生徒自ら県内外に発信することができました。イベント終了後、各校の活動は活発になり、県外参加校との交流、自主公演の開催、人形遣いのみならず三味線・太夫にも新たに挑戦するなど、当フェスティバルが一定の役割を果たすことができたと考えています。座員の高齢化が問題となっている「阿波人形浄瑠璃」の次世代継承者を育成することが事業目的の一つでしたが、出演した高校生数名が卒業後も地元の座に入り、「阿波人形浄瑠璃」の担い手として活動を続けています。

今後も助成をぜひ活用させていただきながら、小学生の参加も視野に入れた第2回ジュニア浄瑠璃フェスティバルを開催し、文化財保護と活用の気運を一層高めていきたいと思ひます。

徳島県教育委員会

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1-1

Tel: 088-621-3267

URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/kenseijoho/soshiki/kyouiku/kyouikubunkaka/>

15 町田市民ミュージカル 2016

町田市民ミュージカルの会

助成金額 868千円

活動概要

町田市民ミュージカルの会は、市民ミュージカルの開催を通じ、多くの市民に芸術的自己表現の場と、舞台芸術の鑑賞機会を提供することを目的として、2011年に設立。参加者数は年々増加し、これまで延べ約200名が舞台に立ち、約100名が美術や衣裳のスタッフとして参加、約2,600名の観客を動員した。観客数が過去最高となった今回の第5回公演では、小学生から60代までの72名（うち公募69名）が出演。8月27日・28日に和光大学ポプリホール鶴川にてミュージカル「遙かなる時の彼方に」を上演した（全3回公演、観客動員728名）。



▲遙かなる時の彼方に

助成を受けて

当団体は、「質的に高いレベルの舞台芸術創作活動に、多くの市民に参加してもらおうこと」「質的に高いレベルの舞台芸術作品を多くの市民に鑑賞してもらおうこと」を目標に掲げています。作品の質を高めることについては、第1回公演以来、予想を上回る成果を上げ続けていると考えていますが、第4回公演までは観客動員の目標を達成できずにいました。今回助成を受けたことで、参加者募集の段階からこれまで以上の広報活動を行うことが可能になりました。助成を受けた公演であることが活動への信頼性を高め、教育委員会などの協力を得て、市内の公立小中学校への広報活動もスムーズに運ぶことができました。その結果、参加者が飛躍的に増加するとともに、チケットをほぼ完売することができ、初めて観客動員の目標を達成できました。スタッフにも十分な報酬を支払うことができ、作品の質がさらに向上しました。



▲遙かなる時の彼方に

舞台芸術の魅力を広く社会に浸透させるには、鑑賞だけでなく、作品創造に参加する人を増やすことが最も効果的です。この活動によって市民が舞台芸術創造の過程を体験し、その魅力を体感することで、舞台芸術に対する理解と支援の輪を広めていくことができると考えています。また、日頃から美術・音楽活動に携わっている市民がスタッフとして参加することが多く、地域の各芸術分野の交流にも繋がっています。

今後は、町田市民の誰もが楽しみに待つような年に一度の恒例のイベントにするため、できるだけ多くの市民に参加してもらい、現在よりも規模の大きいホールで、公演回数を増やして開催したいと考えています。プロの作品とはまた違うアマチュアによる作品の面白さを多くの人に知ってもらい、町田市の文化の一端を担っていけるような活動へと発展させていきたいです。

町田市民ミュージカルの会

東京都町田市

Mail: info@machida-musical.com URL: http://machida-musical.com

16 寒風須恵器窯の再現・焼成プロジェクト

公益財団法人 寒風陶芸の里

助成金額 1,088 千円

活動概要

公益財団法人寒風陶芸の里は、寒風古窯跡周辺地域において、人と触れ合う魅力ある陶芸の里づくりの推進を図り、地域における文化の向上と人々の余暇生活の充実に資することを目的として1979年設立。「寒風須恵器窯の再現・焼成プロジェクト」は、2016年7月～2017年3月、17回45日間にわたり、岡山県瀬戸内市・備前市一帯で焼かれた須恵器の窯を寒風の地に再現し、須恵器の焼成を行うとともに、須恵器についての講演会・学習会を開催。活動を通して作陶技術を検証し、現代の備前焼のルーツをたどり、須恵器づくりの技術の復元・保存・伝承を行った。



▲窯焚き

助成を受けて

日本で初めて窯を使って焼成された須恵器の研究は、現代の焼き物の原点を考える活動となります。特に日本六古窯の一つである備前焼の歴史を考えるうえで貴重な成果となり、現代の陶工をはじめ日本の陶芸研究に大きな刺激を与え、新たな前進が生み出されることが期待されます。

このような長期にわたる活動は、新たな取り組みに対する予算がつけにくい運営状況下において財源的に難しくはありましたが、今回助成を受けたことで長期的に活動計画を立てることができ、寒風古窯跡群や須恵器という焼き物について、多くの方に知っていただくことができました。

窯の制作では作業人員の確保が難しく、須恵器の焼成においては須恵器の色にうまく発色しない作品が見られるなど、課題も残りましたが、須恵器制作、研究に個人で取り組まれている方と、須恵器焼成を経験したことのない陶芸家が、その経験やノウハウを共有し、情報を共有しながら共同による取り組みができました。

また、講演会では助成によって遠方から講師の方を招くことができ、他の須恵器生産地との比較によって、改めて寒風古窯跡からの遺物を理解することができました。講演会や体験ワークショップを通じ、寒風陶芸会館を核として作陶活動が続ける作家から、体験ワークショップに参加した方々に次世代につながる作陶技術が伝承され、広く一般へ陶芸文化・技術の理解を深める内容となり、この地域に存在した歴史と文化を広く発信することができました。特に寒風陶芸会館は地域の小学校の学習の場にもなっており、地域の子どもやその保護者等の郷土愛の醸成にも繋がっています。

須恵器制作、焼成体験、学習会を通して、より深く地域の文化を理解し、周知することができたこの活動を、日本の歴史、陶芸文化の一つとして今後も継続していくために、これからも助成金を活用させていただきたいと思っております。



▲須恵器作品発表会

公益財団法人 寒風陶芸の里

〒701-4301 岡山県瀬戸内市牛窓町長浜 5092

Tel: 0869-34-5680 URL: <http://www.sabukaze.com>

17 山形交響楽団 定期演奏会 (第 252 回～第 259 回)

公益社団法人 山形交響楽協会

助成金額 26,713 千円

活動概要

山形交響楽協会は、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上、山形県内における文化・教育の振興寄与を目的として 1972 年に設立。東北初のプロフェッショナル・オーケストラである山形交響楽団の運営、演奏会、音楽教室の開催などを行う。活動範囲は東北 6 県から新潟県、東京、大阪を含め全国に及ぶ。

2016 年度の定期演奏会はベートーヴェン交響曲全曲演奏を企画の柱とし、2016 年 5 月から 2017 年 3 月までの 8 回 (各 2 公演、合計 16 公演) 開催。国内外のトップアーティストを招聘し高水準の演奏を提供したほか、プレコンサートトーク、交流会、アウトリーチなどを実施し、より幅の広い聴衆に芸術を享受する機会を設けた。今年度より土日 2 回公演を復活させ、一昨年の土日 2 回公演時より平均入場者数が 140% 増加した。

助成を受けて

人口 25 万人の地方都市・山形において世界第一級の演奏家に触れる機会は稀少です。地域文化の啓蒙、交流人口の拡大、青少年の感動体験の機会創出など、東北からの地方創成を図るため、また、楽団の芸術的成長と熟成を目指すため、山形に世界的巨匠やトップアーティストを招聘したいと考え、助成金を申請しました。12 年間にわたり信頼関係を築く飯森範親音楽監督のもと、今年度は山響の特徴である古楽器を取り入れた編成により、ベートーヴェン交響曲全曲演奏を実施しました。助成を受けて世界のトップアーティストの招聘、日本初演を含む現代作品などプログラムの錬磨に力を注ぐことができたため、鑑賞会員数・入場者数が大幅に伸び、また、助成による発信力の強化によって、社会全体からの楽団への注目度が向上し、さらなる鑑賞者の拡大＝芸術文化の裾野の拡大という好循環の礎となっています。

芸術的成果に加え、特別学生券の発行、青少年コンサート招待 (企業支援を受けて)、ウィーンフィル奏者らによる、中高生の音楽指導などのアウトリーチ活動などにより、未来を担う子どもたちの内面的成長の一助となったとともに、文化芸術の担い手の育成でも貢献できたと確信しています。

2020 年の東京オリンピック開催など大きな流れの中で、今後も世界的巨匠・一流アーティストとの共演を継続して聴衆と楽団員のモチベーションを高めるとともに、県外ファンの拡大をはかり、交流人口の増加とインバウンドの拡大につなげ、地域活性・ブランド力向上に貢献していきたいと考えています。



▲山形交響楽団 第 252 回定期演奏会



▲山形交響楽団 第 259 回定期演奏会

公益社団法人 山形交響楽協会

〒990-0042 山形県山形市七日町 3-1-23

Tel: 023-625-2203 URL: <http://www.yamakyo.or.jp>

18 第27回清里フィールドバレエ

株式会社 B. シャンブルウエスト

助成金額 27,430 千円

活動概要

B. シャンブルウエストは、バレエシャンブルウエストなどを経て2011年に設立。文化庁芸術祭大賞を二度受賞したバレエ公演団体で、国内唯一の野外バレエ公演「清里フィールドバレエ」、ポリショイ劇場での海外公演など、日本のバレエ界を牽引している。東日本大震災では慰問公演を行うほか、支援活動も含めて幅広い芸術活動を展開する。

当公演は2016年7月28日から8月10日まで、萌木の村特設野外劇場（山梨県北杜市）において、『白鳥の湖』全幕、『シンデレラ』全幕公演を計11回公演を行い、8000人以上を動員した。



▲清里フィールドバレエ『白鳥の湖』

助成を受けて

世界に通じる野外舞台を目指し、四半世紀にわたって野外バレエ公演を開催しています。特設舞台の設営、2週間に及ぶ長期公演、それに伴うスタッフ・キャストへの支払いなど、通常の劇場借用以上に経費がかさむ野外バレエ公演は民間の力では経済的負担が大きく、助成があって初めて開催が可能となります。

今回助成を受けたことで、極めて質の高いバレエ公演を開催することができました。本年は『白鳥の湖』日本初演70年という節目の年であり、助成によって英国ロイヤルバレエ団より佐々木万璃子、新国立劇場より小野絢子を招聘でき、ゲストダンサーとの共演による古典バレエの追求は、日本のバレエ界のレベルアップとダンサーの芸術性の向上に繋がりました。観客からの賛辞に成功の手ごたえを感じています。

清里でのバレエ上演は地域社会の経済と文化の発展に貢献し、芸術文化による地域づくりのモデルとしても注目されています。幅広い年代の観客を動員しており、特にバレエ公演では珍しい子供料金を設定して、幼少期から一流の芸術に触れる機会を提供し、情操教育にも貢献しています。また、通常の劇場では難しい知的障害者への鑑賞機会の提供など門戸を広げ、「人と共にある」芸術文化の発展と振興に寄与できたと自負しています。これも、助成により開催される質の高いバレエ公演の社会的認知度による効果です。

自然相手ゆえに、今回は世界的プリマ、ニーナ・アナニアシヴィリを迎えた特別プログラムが豪雨のため中止となり、チケットの払い戻しや振り替えといった対応に苦慮しました。それでも「来年を楽しみにしています」との観客の声に、長年公演を積み重ねてきたことに対する強い信頼を感じました。

今後はより規模を広げ、夏のイベントとして3～4週間、他の団体との交流も視野に入れながら、日本が誇る野外バレエ公演として地域と共に発展することを望んでいます。今日まで育んだわが国唯一の野外バレエ公演をさらに定着させ、一層発展させていきたいと思っております。



▲清里フィールドバレエ『白鳥の湖』

株式会社 B. シャンブルウエスト

〒192-0902 東京都八王子市上野町 104-16

Tel: 042-624-4037 URL: <http://www.chambreouest.com>

19 文学座公演「越前竹人形」

株式会社 文学座

助成金額 14,862千円

活動概要

文学座は1937年、久保田万太郎、岸田國士、岩田豊雄らを発起人として創立。翌年、試演と称する第一回公演を行い、創立80年を迎える今日まで公演活動を続けている。劇団の活発な演劇活動に対して紀伊國屋演劇賞団体賞を受賞したほか、文化庁芸術祭賞、読売演劇大賞最優秀演劇賞など数多くの賞を受賞。社会的認識のうえに立った舞台活動を通じて、現代人に真の意味における精神の充実を呼びかけている。

「越前竹人形」は、劇団が36年ぶりに取り組んだ作家・水上勉の代表作で、劇団としては初の上演。2016年10月25日から11月3日まで、計10回公演を行った。



▲『越前竹人形』助川嘉隆、山本郁子（撮影：鶴田照夫）

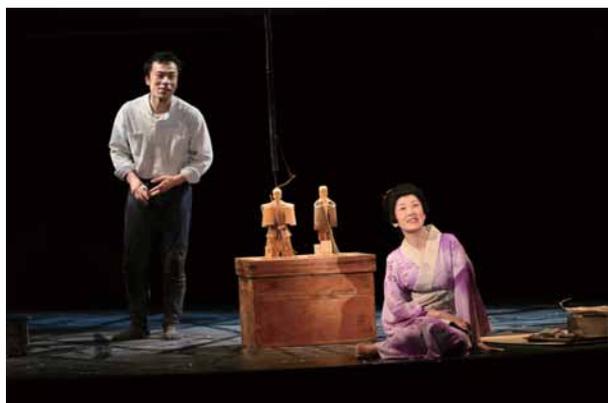
助成を受けて

作品の質を向上させるとともに、観客にとって手頃なチケット料金の設定を維持し、より多くの観客に演劇の鑑賞機会を提供したいと考え、助成を申請しました。助成金を受けることで、新作、新演出、翻訳初演などリスクの高い演目、特に経費のかかりがちな和物作品に取り組むことができます。今回の水上勉作品では新世代を代表する演出家・高橋正徳が指揮を執り、現代的感覚を盛り込んで、名作を時代に埋没させることなく、全く新しい作品として上演することができました。若手からベテランまで層の厚いキャストとスタッフが参加し、高水準の芸術成果をあげるとともに、座が持つ長所である「生活的リアリズム」と「和物作品上演を通して受け継がれてきた高い技術」という、専門性の蓄積と継承も行うことができたと考えます。

文学座の公演演目は、国内外の近代古典から前衛的現代作品まで幅広いレパートリーに特色があり、多様な観客層を獲得しています。その意味では私たちの活動は不特定多数の演劇鑑賞者を対象としており、公益性の高い活動であると自負しています。今回は作品の舞台である福井県に後援いただいたことで福井県出身者や居住経験のある方も来場し、「懐かしい」「福井に戻りたくなった」など好意的意見を多くいただきました。演劇と地域が密接につながるものの、一つの証左と感じています。

一方で、多種多様な舞台芸術が存在する芸術文化の中で、文学座の顧客・観客層は少子高齢化に伴って観客総数が減少傾向にあり、新たな（若い世代の）観客獲得と新規顧客の拡大については、将来に向けて大きな課題です。高い芸術水準を目指して意欲的に多様なレパートリーを展開することによって、次世代の新たな観客を掘り起こし、育成していきたいと考えます。

今後も引き続き助成金を活用することによって、文学座の演劇活動をより公益性の高いものとして幅広い観客拡大へと繋げ、また、公演活動をより安定化させることで、地域との連携やアウトリーチ、教育、普及事業といった幅広い公共分野に、蓄積してきた「演劇の智」を活用していきたいと思っています。



▲『越前竹人形』助川嘉隆、山本郁子（撮影：鶴田照夫）

株式会社 文学座

〒160-0016 東京都新宿区信濃町10

Tel: 03-3351-7265 URL: <http://www.bungakuza.com/>

20 復曲試演の会

公益社団法人 京都観世会

助成金額 549千円

活動概要

1918年に設立され、主として京都在住の観世流シテ方能楽師の団体として活動してきた京都観世会を、1956年に社団法人として改組。2011年、公益社団法人京都観世会に移行。能楽の保存・育成とその研究、発展・普及を図り、伝統芸能の興隆に寄与することを目的とする。

本公演は2012年から始めた研究的事業の復曲公演で、その第4回公演。無常観・死生観を主題に高浜虚子が書き上げた能「鐵門」の復活上演に取り組んだ。2016年6月5日、京都観世会館にて1回実施（講演、能「歌占」「鐵門」で構成）。入場者数389名。



▲「鐵門」

助成を受けて

この復曲公演はじっくり2年間をかけて、廃絶された曲を現代に甦らせる活動として取り組んでいます。京都観世会会員と研究者が協力して「復曲委員会」を構成し、研究・会合・稽古からプレ公演に至るまで長期間にわたって展開。多くの準備時間と労力を要するため、多大な経費負担が避けられず、助成金に応募しました。

戯曲「タンジールの死」を典拠とし、俳人高浜虚子が幼くして亡くした我が娘への思いを込めて書き上げた「鐵門」の初演から100年を迎え、その復曲作業には相当なエネルギーを要しました。死への恐怖、苦悩と運命を鉄の門に象徴させた内容を、詞章の構成、言葉の面と、演技・仕草を含む身体表現の面で、いかに現代に訴える舞台表現にできるかに腐心しました。

実際の舞台には鉄の門を出さずに鉄の門を表現するという、能ならではの手法で現代人に訴え、多くの観客に受け入れられました。助成を受けた公演ということでも活動が認知され、現代に生きる能の表現としてひとつ



▲「鐵門」

の可能性を提示できたことは大きな成果です。永遠の無常観・死生観を主題に「復曲」という伝統芸能を新たな視点から見つめ直し、新鮮な命を吹き込んだ公演活動として多くのメディアにも取り上げられました。鑑賞者・享受者の裾野の広がりが実感でき、能楽の普及・振興を促す活動として意義深いものになったと感じています。

能楽師の世代交代が進む中、先人の表現に対する情熱と表現方法を遡ることで、能の未来を切り拓く情熱と身体表現を獲得できるよう、意欲的に活動していきたいと思っています。今後も会員能楽師の成長をはかり、新鮮な気持ちで「復曲」「新作能」を開拓し、京都観世会の中心事業として水準の向上を目指して、舞台づくりをはじめとする活動を続けていきたいと考えています。広報活動のあり方や運営面の点検・見直しを行いつつ、京都からの文化発信の基礎確保として、これからも助成の支えをお願いしていきたいと思っています。

公益社団法人 京都観世会

〒606-8344 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町44

Tel: 075-771-6114 URL: <http://www.kyoto-kanze.jp>

21 Water illusion & Japanese Traditional Magic

東京イリュージョン 株式会社

助成金額 1,022千円

活動概要

「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」である「手妻」を保存・改良することで奇術界の発展に寄与するため、1985年に東京イリュージョンを結成。江戸末期に大発展を遂げるも、現代では演じ手が途絶えていた手妻の素晴らしさを伝えている。BGMに三味線、太鼓、笛などの邦楽の生演奏を取り入れ、マジックという親しみやすい芸能を通じて和の仕草、伝統、音楽に触れ、わが国の文化再発見を目指して活動を続ける。文化庁芸術祭参加、芸術祭大賞などを受賞。

本公演は、2016年10月12・13日に東京（座・高円寺2）、2017年2月15日に大阪（国立文楽劇場）にて、2都市3回公演を行った。大阪公演では750席の客席がほぼ満席となった。



▲双つ引出

助成を受けて

日本の元祖マジックともいえる「手妻」の素晴らしさを現代の人々に知ってもらいたいと活動しており、公演に際しては一番太鼓・二番太鼓・早渡り・出囃子なども含め、昔ながらの芝居小屋で行われていたやり方を継承しています。今回助成を受けたことで、至る所から水を吹き上げる豪華絢爛な「水芸」や、紙の蝶を飛ばして蝶の一生を語る「蝶のたはむれ」、米から水、うどんへと変わる「三段返し」、袋の中から多数の卵が出てくる「袖たまご」などの復活演目といった、多彩な手妻の世界を紹介でき、技術的にもレベルの高い邦楽の演奏家に生演奏をお願いできました。公演に関わる経費が嵩み、助成がなければ独力での開催はとても難しかったと思います。

この公演で「手妻、水芸を初めて観た」というお客様が多く、広く一般に知っていただく良い機会となりました。特に大阪ではマスコミの大々的な協力や大阪市の後援によって、水芸が大阪の伝統文化として認められたことは大きな成果です。囃子に合わせて観客全員が手拍子をして熱狂するなど大いに盛り上がり、来年の開催を求める声も多く寄せられました。一方、東京では公演の周知も難しく集客に苦労しましたが、杉並区等の協力を得ることができ、また、主宰・藤山新太郎が杉並区文化人に選出され、区内の小中学校、図書館にて手妻を伝える活動が紹介されるなど、次代に向けても広く普及することができました。多様な芸能が存在することが奥深い文化を備えた日本の証でもあり、私たちの公演活動により、一般市民の社会生活を豊かにしていきたいと考えています。



▲水芸

東京イリュージョン 株式会社

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 5-21-3 藤山ビル 2F
Tel: 03-5378-2882 URL: <http://www.tokyoillusion.co.jp/>

22 彼らが本気で編むときは、

株式会社 パラダイス・カフェ

助成金額 22,000 千円

活動概要

パラダイス・カフェは、2001年より映画製作に参入し、テレビコマーシャルの企画・制作、劇場映画の企画・制作・配給・宣伝を行っている。過去に映画『いつか読書する日』（文化芸術振興費補助金）、『かもめ食堂』『めがね』（芸術文化振興基金助成金）にて助成を受けた実績がある。

本作は元男性のトランスジェンダー・リンコを主人公に、その恋人と姪、3人の奇妙な共同生活を描く。リンコが「性」に悩み苦しんだ思春期に母から教わった編み物が、人と人とのもつれた心を繋ぐ重要なアイテムとして登場。LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）を代表とする多様な価値観を受容する成熟社会への希求を込めて企画された。荻上直子監督・脚本、生田斗真主演。ベルリン国際映画祭ティ審査員特別賞、ウディネ・ファーイースト映画祭観客賞・ブラックドラゴン賞、テルアビブ国際LGBT映画祭最優秀作品賞受賞。

撮影は2016年3月より36日間、編集・仕上げは同年4月より163日間行った。完成試写は同年9月30日。2017年2月より劇場公開。上映時間127分。



▲「彼らが本気で編むときは、」撮影風景



▲「彼らが本気で編むときは、」撮影風景

助成を受けて

この映画にはLGBTだけでなく、育児放棄、介護等、現代社会が抱える様々な問題が含まれていますが、そうした問題を声高に主張するのではなく、物語を楽しみながら観客それぞれに深く考えさせる内容になっています。その意味でも非常に公益性の高い映画であると認識していたため、撮影中に助成金の認可が下りたという連絡を受け、諦めていたシーンを撮影できると心からホッとしました。日本の美しい風景をリアルに取り込む狙いもあり、桜のつぼみから満開、散り際まで、登場人物の暮らしを季節と共に感じられる映像を撮影できたのも、助成金のお蔭です。結果的に上質な映画を観客に届けることができ、ベルリン国際映画祭をはじめ国際的にも高い評価を得ることができました。日本の文化や社会を広く知らしめたとともに、日本映画の存在を高める点でも貢献できたのではと自負しています。

日本の社会はまだLGBTに対する偏見が根強く、寛容とは言えません。お互いの多様性を認め合う社会にしていきたいという重要な社会的テーマを持つと同時に、「家族」や「成長」といった普遍的テーマが根底に流れる極上のエンターテインメントは、人々の心を豊かにし、それが心の平安につながり、ひいては安全な社会を形成する一助となります。

映画製作者にとって助成金は大きな助けであり、世界にもっと日本映画をアピールするためにも、今後も助成金をぜひ活用させていただきたいと思っています。

株式会社 パラダイス・カフェ

〒150-0011 東京都渋谷区東 1-22-2

Tel: 03-5774-3255 URL: <http://paradisecafe.co.jp/>

23 息の跡

有限会社 カサマフィルム

助成金額 4,000千円

活動概要

カサマフィルムは映画、テレビ番組、ビデオ等映像ソフトの企画、制作、販売等を目的として1996年に設立。過去に映画『阿賀の記憶』『チョコラ!』『風の波紋』にて芸術文化振興基金の助成を受けた。

本作は、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市に約3年間暮らして記録活動を続けてきた監督が、同市で種苗店を営みながら外国語で手記を綴る男性を追ったドキュメンタリー映画。津波に流された町の跡で、かつての風景やともに生きた人たちとの些細な記憶を心の支えとして生きる人々の、個々の生活の中にある小さな営みを丁寧にすくい取っている。監督は渦中にいた人たちが独自に編み出した、失われたものを伝え残す方法を「表現」と捉え、この記録の鑑賞者自身が震災や表現について考える契機となることを目指した。

撮影は2011年12月から2016年8月まで4年8カ月、編集・仕上げは2016年7月から10月まで行った。完成試写は同年11月4日。2017年2月より劇場公開。上映時間93分。

助成を受けて

過去3作でも貴振興会の助成金をいただいて製作してきました。作品としての完成度には自信を持っていますが、製作費を回収することが容易ではないドキュメンタリー映画では、次作の取材費だけでなく仕上げの費用にも苦労するのが現状です。今回助成をいただいたことで、追加撮影、音の口ケ、質の高い仕上げを行うことができ、作品内容が豊かになりました。また、貴振興会ではバリアフリー版にも助成いただけるのが非常に魅力的で、バリアフリー字幕版、音声ガイドは助成がなければ製作できませんでした。お陰様で視覚・聴覚に障がいのある方にも喜んでいただけました。

本作は小森はるか監督が大学院の卒業制作でまとめたものを弊社スタッフが目にし、ぜひ劇場公開作品として多くの人に観てもらいたいと再編集したものです。3年にわたり現地で生活し一人の被災者の暮らしを丁寧に追った稀有な作品を、震災から6年目に劇場公開でき、また、才能ある若い監督を世に出せたことは大きな成果でした。そして復興が進む陸前高田の“今”を現地に暮らす人の日常を通して伝えられたことに、この映画の公益性があると考えています。

今後も観る人に「生きているっておもしろいな」と思っただけの作品づくりを続け、才能があっても映画製作の機会をつかめない若い人々の後押しができればと思います。



▲津波で店を流された佐藤貞一さん 自力で店舗を再建しいち早く営業を再開した



▲種から育てたトマトの苗 「そろそろ野菜を育ててみようかと思って」と地元の人たちが買っていく

有限会社 カサマフィルム

〒176-0025 東京都練馬区中村南 2-21-12-102

Tel: 050-8885-7669 Mail: info@kasamafilm.com

24 君の名は。

株式会社 コミックス・ウェーブ・フィルム

助成金額 20,000千円

活動概要

コミックス・ウェーブ・フィルムは、1998年設立の株式会社コミックス・ウェーブを前身とし、アニメーション映画の企画・制作・配給、ビデオグラムの販売・輸出入業務、作家マネージメント、著作権管理業務を目的として2007年に設立。芸術文化振興基金助成金を受けた『星を追う子ども』をはじめ、新海誠原作・脚本・監督による『秒速5センチメートル』『言の葉の庭』などのアニメーション映画を製作。

本作も新海誠原作・脚本・監督により、1200年に一度の彗星の到来を間近に控えたある朝、突然魂が入れ替わった少女と少年の物語を瑞々しく描いている。

作画・撮影は2015年3月から2016年6月まで行い、完成試写は2016年7月1日。同年8月26日より劇場公開され、2016年公開作品において興行収入および入場動員ともに1位を記録した。2017年3月23日まで210日間の興行収入約247億円、累計動員約1900万人。上映時間107分。



▲フランス・パリでのプレミア上映時の舞台挨拶



▲スペイン サン・セバスチャン映画祭にてファンにサインを応じる新海誠監督

助成を受けて

当社では、新海誠を筆頭として、作家が表現したいことを追求できる環境を整えるべく、制作の大半を内部で賄う方式を採用しています。アニメーション映画の製作は費用も非常にかかり、期間も長くかかるため、スケジュールの遅れや内容変更に対応した予算管理も見据えて、助成金を申請させていただきました。スタジオジブリ作品を手がけた安藤雅司を作画監督に迎えるなど、日本の名だたるアニメーション映画に携わってきた熟練の作画・動画スタッフの方々に多数参加いただくことで、クオリティの高い作品づくりが実現しています。以前、『星を追う子ども』で助成をいただいた実績も踏まえて申請させていただき、今回も助成金をいただけたことで、より確実に作品の完成および公開を行うことができました。

これまでの新海作品よりも規模を拡大した公開を予定していたため、以前より多くの方に作品を知っていただけたとは思っていましたが、結果は私たちの予想をはるかに越えた大ヒットとなり、1900万人を超える方々にご覧いただくことができました。このことは作家・アニメーター・制作スタッフの地位や生活の向上、新たな芸術活動への意欲・動機づけ、アニメーション制作・映画製作業界を含む芸術創造活動分野の発展にもつながり、また、非常に多くの方々に楽しんでいただいたことで、公益性のある波及効果を達成できたのではないかと考えています。

今後も、より制作者や業界に貢献できる作品制作活動を行い、また、国内外でのアニメーションの認知向上に発展寄与できるよう、映画づくりを続けてまいります。作品制作活動が支援に値すると考えていただけるようであれば、ぜひまた助成金を活用させていただきたいです。

株式会社 コミックス・ウェーブ・フィルム

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-9 市ヶ谷 MS ビル 5F

URL: <http://www.cwfilms.jp>

25 パカリアン

TOKO FILM

助成金額 1,350千円

活動概要

TOKO FILM は、秦俊子監督『パカリアン』製作のため、2016年4月に設立。東京藝術大学大学院映像研究科のノウハウやネットワークを活用しながら映像作品制作を行う。

本作はパペット（人形）アニメーション制作を続ける映像作家の秦俊子監督が長年構想していた企画であり、地球に送り込まれた宇宙人調査員と、奇妙なマスクをした人間との攻防を描く。子供から大人まで楽しめるホラー・コメディ作品となった。

撮影は2016年11月から2017年1月まで。編集・仕上げは同年2月1日から25日まで行った。完成試写は2017年2月28日。同年3月のゆうばりファンタスティック映画祭にて招待上映、4月より下北沢映画祭・ヨーロッパ企画の上映イベントでも招待上映された。上演時間10分40秒。

助成を受けて

パペットアニメーションでは、人形、背景、セット、小道具など多くの造形物がが必要です。助成をいただくことでそれらを効率的に外注し、作品の完成度を高めることができました。造形、撮影、サウンド、ポストプロダクション作業など様々な工程においてプロフェッショナルな方々にご協力いただくことができ、助成をいただいで本当に感謝しております。また、貴振興会の助成対象作品となることで、責任と作品の信頼性が高まり、今後続編展開を企画するうえでも大いに助けになると思います。

今回の作品では、原作ものではなく、完全オリジナル作品を制作して一般に広く公開すること、個性あるキャラクターとアニメーションの面白さを伝えることで、世間への認知度を高めることを目指しました。人形アニメーション（キャラクター）と実写（背景）の融合をはかり、新しいアニメーション表現を開拓できたのではないかと思います。俳優の斎藤工さんが声優として協力してくださったことで想定以上に多くの方に観ていただくことができ、エンターテインメント性の高い作品を社会に届け、人形アニメーションの認知度を高めることができました。これらの活動を通して、短編アニメーション及び人形アニメーションの普及活動に少しでも役立ちたいと思っています。

本作品は、今後商業的にシリーズ展開をしていきたいと考えており、より多くの人々に観てもらえる機会を作りたいです。助成金も活用させていただきながら、今後もクオリティの高い人形アニメーションを制作していきたいと思っています。



▲『パカリアン』



▲『パカリアン』MA作業

TOKO FILM

Mail: saya-cafe@hotmail.co.jp

URL: <http://hatatoshiko.net/>（秦俊子 HP）

芸術文化振興基金への御案内

芸術文化振興基金は、国の出資金と企業等からの寄附金を原資として創設され、我が国の文化芸術活動に助成し芸術文化の振興普及に寄与しています。

この基金の創設にあたり、その趣旨に御賛同の上、多額の御寄附をいただいた企業等は次のとおりです。御支援に深く感謝いたします。

支援企業グループ

建設	積水化学工業(株) 第一三共(株) 三菱ケミカル(株)	印刷	日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社 三井住友海上火災保険(株) 三井生命保険(株) 明治安田生命保険相互会社
青木あすなろ建設(株) (株)安藤・間 (株)大林組 鹿島建設(株) (株)熊谷組 佐藤工業(株) 清水建設(株) 積水ハウス(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 戸田建設(株) 飛鳥建設(株) 西松建設(株) (株)長谷工コーポレーション (株)フジタ 前田建設工業(株)	石油・鉄鋼	百貨店	不動産
	出光興産(株) 新日鐵住金(株)	(株)高島屋 (株)三越伊勢丹	住友不動産(株) 東急不動産(株) 三井不動産(株) 三菱地所(株)
	機械・精密機械	銀行	輸送
	日本精工(株) HOYA(株) (株)リコー	(株)新生銀行 (株)みずほ銀行 みずほ信託銀行(株) (株)三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) (株)三菱東京UFJ銀行 三菱UFJ信託銀行(株) (株)横浜銀行 (株)りそな銀行	カトーレック(株) 全日本空輸(株) 東京急行電鉄(株) 日本航空(株)
	電気機器	証券	観光
	沖電気工業(株) キヤノン(株) コニカミノルタ(株) (株)JVCケンウッド シャープ(株) ソニー(株) TDK(株) (株)東芝	SMBC日興証券(株) SMBCフレンド証券(株) 三洋証券(株) (株)大和証券グループ本社 野村證券(株) みずほ証券(株) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) 山一証券(株)	(株)ジェイティービー 藤田観光(株)
食品	日本コロムビア(株) 日本電気(株) パイオニア(株) パナソニック(株) (株)日立製作所 富士通(株) 三菱電機(株) (株)村田製作所	保険	出版
アサヒグループホールディングス(株) 味の素(株) キッコーマン(株) キリンホールディングス(株) サッポロホールディングス(株) サントリーホールディングス(株) 雪印メグミルク(株)	輸送用機器	アクサ生命保険(株) 朝日生命保険相互会社 ジブラルタ生命保険(株) 住友生命保険相互会社 損害保険ジャパン日本興亜(株) 第一生命保険(株) 大同生命保険(株) 太陽生命保険(株) T&Dフィナンシャル生命保険(株) 東京海上日動火災保険(株)	(株)講談社 (株)小学館
	トヨタ自動車(株) 日産自動車(株) 本田技研工業(株) 三菱重工業(株)		広告
繊維	楽器		(株)電通 (株)博報堂
東洋紡(株) 東レ(株) (株)ワコールホールディングス	(株)河合楽器製作所 ヤマハ(株)		通信・その他
パルプ・紙			(公財)清栄会 (公財)全国税理士共栄会文化財団 日本たばこ産業(株) 東日本電信電話(株)
王子ホールディングス(株) 日本製紙(株)			(平成30年2月現在、順不同)
化学・医薬			
花王(株) (株)資生堂 昭和電工(株)			



芸術文化振興基金

芸術文化振興基金による助成

目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行います。

助成対象活動

◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

※詳細は、ホームページ <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動並びに優れた日本映画の製作活動を支援することを目的としています。

なお、平成30年度より、劇場・音楽堂等が主体となって行う実演芸術の創造発信等に対する助成を行います。

助成対象活動

◆舞台芸術創造活動活性化事業（※）

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

（※）助成の形態には、活動毎に助成を行う公演事業支援と、複数の活動を一括して助成する年間活動支援があります。

助成金の額の算定方式の類型には、①芸術水準の向上を図るとともに、芸術団体の集客努力を促し、より多くの国民に優れた舞台芸術を提供するため、入場料収入に応じた支援を行う「入場料収入連動型」と、②芸術団体の芸術水準の向上となる公演の中でも、特に企画性の高い意欲的な芸術活動について、創造活動に対する支援を行う「創造活動経費支援型」があります。

◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画

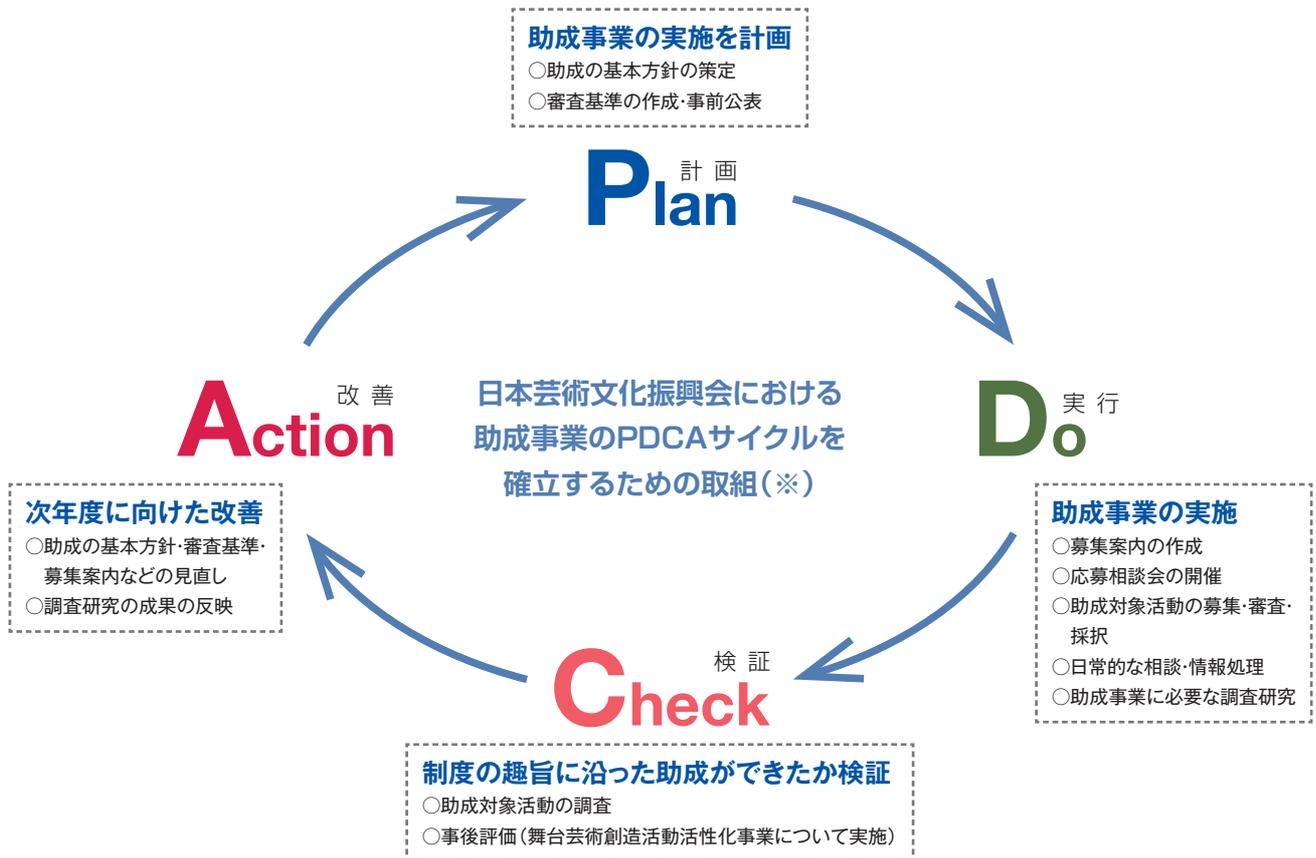
※平成30年度より助成開始

◆劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
- 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業
- 共同制作支援事業
- 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業

文化芸術活動に対する 助成システムの機能強化について

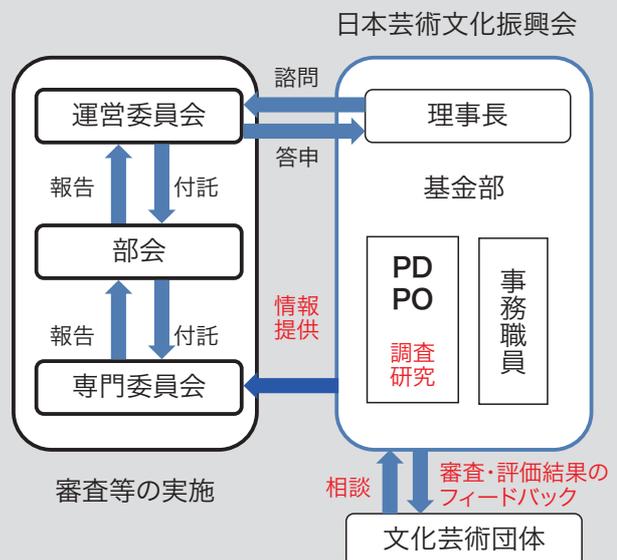
日本芸術文化振興会では、文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に取り組んでいます。具体的には、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について、専門家であるプログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、その知見を活かして助言、審査、事後評価及び調査研究等の充実を進めています。



※ PDCA サイクルとは：計画の作成、計画に沿った実行、実行の結果を目標と比べる検証、発見された課題に対する改善の4段階を繰り返すことで、事業の質の向上を目指す取組です。

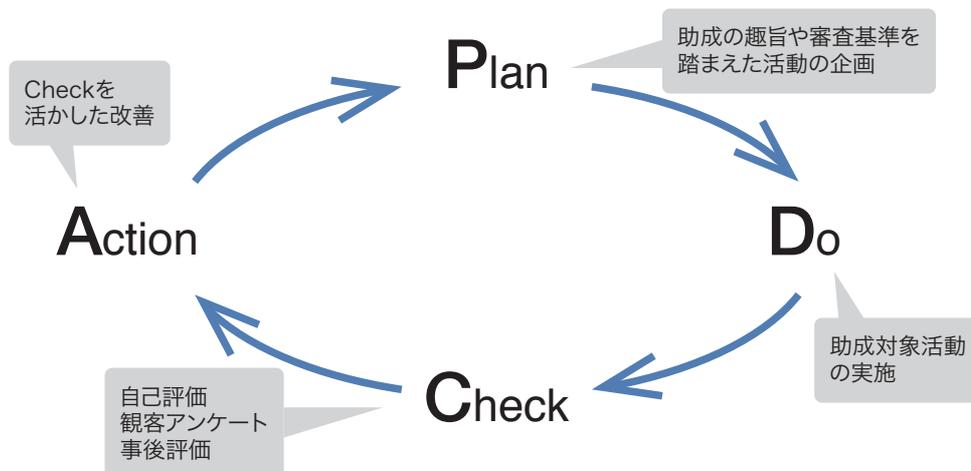
取組の実施体制

芸術文化振興基金運営委員会は、助成対象活動について、採択に係る審査のほか、事後評価に関する審議及び決定を行います。PD・POは、専門的な視点から運営委員会などに対して情報提供を行うとともに、審査・評価の結果を文化芸術団体にフィードバックします。



助成を受けた文化芸術団体も、団体としてのPDCAサイクルが必要です。

助成対象活動の実施が文化庁の政策目的の実現につながったかどうかについて、文化芸術団体自らが評価を行い、事後評価の結果も踏まえながら、改善を行っていくことが必要です。



文化芸術への公的支援に関する考え方はどう変化していますか？

平成23年2月8日に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第3次基本方針）では、「従来、社会的費用としてとらえる向きもあった文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す。」とされました。

したがって、助成金の交付対象として採択するかどうかを判断する場合には、助成金の趣旨に沿った活動かどうかに加え、「戦略的な投資」にふさわしい「社会的必要性」を踏まえた活動計画になっているかどうかを考慮することになります。

当振興会の助成金に応募される文化芸術団体には、助成金交付要望書を作成するに当たり、当該活動の展開を通じて、社会にどのような波及効果を及ぼすことが見込まれるのか、分かりやすく説明していただくこととなります。

詳しくはHPをご覧ください→ <http://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artscouncil.html>

助成システムの充実のための具体的な取組は？

プログラムディレクター（PD）・プログラムオフィサー（PO）制度	文化芸術に関する専門家であるPD・POを配置し、その専門的知見を活かして、文化芸術活動に関する助成システムの充実を進めています。
審査基準の作成・事前公表	要望書提出期間の前に、日本芸術文化振興会のホームページに採択に当たっての審査基準を公表していますので、文化芸術団体は、各助成金の目的や、活動内容に何が期待されているかを知ることができます。
文化芸術団体からの相談への対応	活動の企画に当たって不明な点や、参考となる先行事例等についてPD・POに相談できるよう、日本芸術文化振興会のホームページに連絡先を掲載しています。また、全国で応募相談会も開催しています。
助成対象活動の調査	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかを検証するため、PD・PO等が実際に公演に赴き、調査を行っています。
事後評価の実施	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかについて、公演調査の結果や実績報告書等に基づき、評価を行っています。評価結果はPD・POを通じて各団体にお伝えしますので、次回の要望に向けた改善に活かしてください。
調査研究の実施	助成事業の効果の検証や改善に資する資料とするため、調査研究に取り組んでいます。

発行日 _____
平成30年3月30日

編集発行 _____
独立行政法人
日本芸術文化振興会 基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎03-3265-6302
URL <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html>

